

白友会会報

会長 あいさつ

白友会会長

勢川 瑠美子

編集責任者 枝 城 戸 滝
大阪医科大学
附属看護専門学校
No. 1
平成9年4月



新しい年度を迎え、同窓会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。

昨年六月一日の同窓会「白友会」設立総会には、先輩・同僚・後輩の皆様が多数御参集下さり懐かしく、楽しい中にも厳粛に会が設立しましたことに感謝を申し上げます。これからの母校の発展を同窓生の皆様に見守られていることで一層の心強さを実感した一日でした。今回は準備委員会の推薦を受けて会員の皆様の総意を頂きましたことから不祥私が会長を務めさせていただくことになりました。できるだけ会員の皆様方の意に添う会でありますように役員一同で励む所存ではあります。

きの点も多いことと思います。どうぞお気持ちの際にはよろしくお導き下さいませようお願ひ申し上げます。その後私達役員は定期的な会を開き、これからの同窓会運営について検討を重ねて参りました。遅ればせながら、ここに第一回会報を発行することになりました。十分意を尽くすところまでには至っておりませんが、これからも何とか頑張っていきたいと思っております。尚、会報を今後も継続させるためには、同窓生の方々のお声をぜひお寄せくださいませう、積極的な参加をお願い致します。

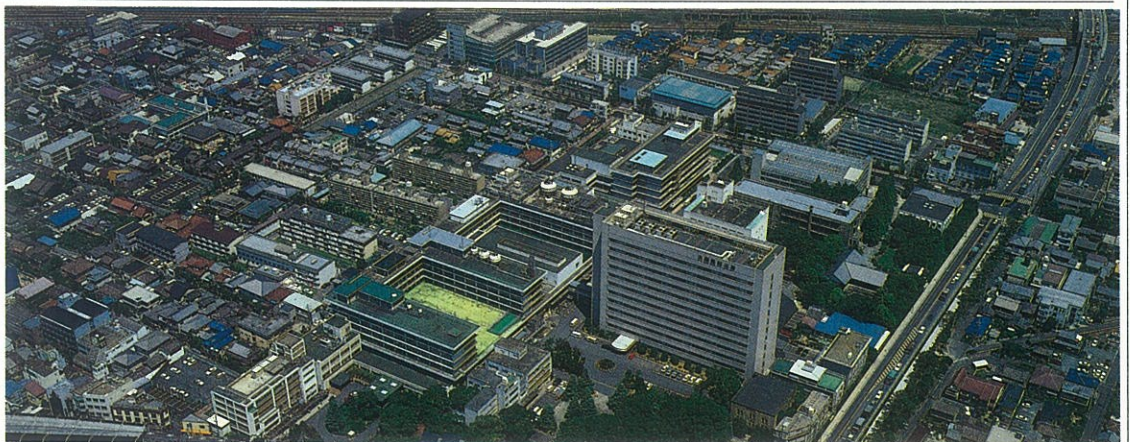
本年は大阪医科大学創立七〇周年を迎えることで、大学当局ではそのための準備を進めています。私達職員一同も楽しみに致してお

ります。いづれ又会報を通して詳細はご報告致します。

大阪医科大学附属病院に於きましては今年も新しく採用するスタッフ一〇名の内定も決りました。最下、臨床では新採用者を迎えるための準備をすすめております。「常に時代の変化に添った、対象となる患者さん・家族の思いに配慮する看護を実践するために……」を基盤におき、より質の高いケアが継続できる看護者の育成に努めております。

母校を巣立ち社会の多方面で活躍して下さっている卒業生が、いつでも、どこでも、本校で学ばれた看護の基礎を大切にされていることの評価を聞く度に、私は大阪医科大学附属看護学校で学んだことを誇りに感じております。この先何世紀に亘ろうとこれらのよき風土が引きつがれて行くことを願ひまして日々を大切に過ごしていきたいと考えております。

最後になりましたが、同窓生の皆様お一人お一人のご多幸とご健康を祈念し私の挨拶とさせていただきます。



大阪医科大学全景

大阪医科大学附属看護専門学校 同窓会（白友会）設立総会報告

白友会副会長
橋本 豊子

春光うらかな季節になりました。同窓生の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

昨年六月一日に念願の大阪医科大学附属看護専門学校同窓会（白友会）を設立することができました。発足に際しましては大学関係者の皆様、歴代校長、多くの同窓生の皆様のご支援をいただき感謝致しております。総会当日は300余名の同窓の皆様が全国から参集され、学生時代を懐かしみ旧交を温めることができました。とくに大先輩の皆様方には遠方から多数ご参加いただき、世話人一同心からうれしく思いました。

総会開催に際して、三好元看護部長のご挨拶を戴きましたときには会場から一段と大きな拍手がわきおこりました。三好元看護部長は戦後のさびしい時代を乗り越えてこられ、看護の発展に尽くされたご努力が、同窓の皆様のご気持ちと一体になった一瞬ではなかったかと思われまます。総会議案では会員の皆様のご賛同を得、組織が確立され、会則、役員、顧問、会計等の全てが規程に基づき承認されました。初代会長には勢川（新野）現看護部長が就任されました。現在、

勢川看護部長は附属病院のみならず、看護界では大変に活躍され心強く思っております。

総会に続いて、「素敵に生きる」と題して記念講演がありました。講師の木津川先生のお話はソフトでユーモアの中に「明日への生き方」を示唆していただき、有意義な時間を過ごさせていただきました。

さらに、夕方からの懇親会は和やかな雰囲気の中で、年齢を忘れて青春時代に思いをおこし、懐かしく楽しい集いになりました。今回、残念ながらご出席できなかった方々に少しでもイメージしていただきたく、当日のプログラムと様子を写真で紹介させていただきます。

ぜひ、次回の同窓会（白友会）には、会員の皆様のご多数のご参加をお願いし、同窓会の成長と発展にご支援ご協力を賜りたいと思っております。また、未加入の方々の加入を期待しております。最後になりましたが、本同窓会が盛会に終了できましたことに深く感謝申しあげますと共に、会員の皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



同窓会設立総会

「一四・〇一・一六・〇〇」

司会進行 藤川 千洋

総会次第

一、開会

二、あいさつ

同窓会発足準備委員会
委員長 橋本 豊子

三、祝辞

大阪医科大学附属看護専門学校
学校長 塚 俊明

大阪医科大学理事
田中 忠彌

大阪医科大学
学長 藤本 守

大阪医科大学附属病院
元看護部長 三好トヲキ

四、議長選出

五、議事

第一号議案 同窓会会則（案）

第二号議案 同窓会役員（案）

第三号議案 設立総会までの
収支報告

六、役員紹介

七、会長あいさつ
同窓会会長

休憩

八、記念講演

「一五・〇一・一六・〇〇」

「素敵に生きる」

講師：立命館大学産業社会学部教授、
「上方芸能」編集長

木津川 計 先生

九、閉会



懇親会

会場：高槻現代劇場 三階会場
〔二七・〇〇一・一九・〇〇〕

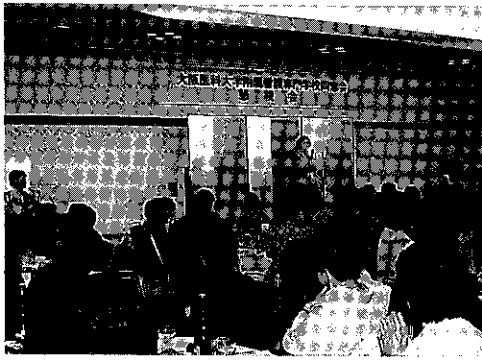
懇親会次第
司会進行 神谷美佐子
井原美保子

一、開会の辞
二、会長あいさつ
同窓会会長

三、祝 辞
大阪医科大学附属看護専門学校
元学校長 武内 敦郎

大阪医科大学附属看護専門学校
前学校長 小野村敏信

祝電披露
四、乾杯
大阪医科大学附属看護専門学校
学校長 堺 俊明



五、フリートタイム
六、大阪医科大学附属看護専門学校
学校のあゆみ
七、演 目
〔詩吟〕：昭和35年度卒業生
宮武 明

〔華の舞〕：昭和二十八年度卒業生
八木 光子

〔歌〕：昭和六十一年度卒業生
藤川 千洋

〔ナイチンゲール賛歌〕 斉唱：
八、花束贈呈

九、閉会の辞
同窓会副会長

閉 会

演目につきましては、飛び入りの参加も多数あり、会も大変に盛り上がりました。本当にありがとうございました。



会 計 報 告

< 支 出 >		
項 目	金 額	備 考
事業費	1,240	名簿発送 4名
会議費	0	
管理費	0	
予備費	14,356	祝電代 (戴帽式・卒業式) 花束代 (厚生大臣表彰)
合 計	15,596	
繰越金	9,441,873	

< 収 入 >		
項 目	金 額	備 考
繰越金	8,507,469	
会 費	950,000	新入会員 4名 8年度卒業生 91名
合 計	9457,469	

平成9年3月31日

総 会 を 終 え て

総会終了後、参加いただいた先輩の方から、次のような心暖まるお便りを頂きました。ありがとうございました。

旧制看護学校10回生

後 藤 は る

役員の方々の会員に対するお心づかい、立派な大勢の来賓の方々、盛大な見事な大会、今や医学の進歩と共にレベルの高い看護学校の力を感しました。同じお釜のごはんをいただいた看護学校の学友との同窓会は、私にとってはこの他の同窓会にも勝るもので、会いたくて、行きたくて、値打ちあるもので勇んで出かけることができました。

昔のアダ名で呼び合い、たちまち十五年前に戻り、また、四年後まで長生きしたいと励まし合いました。

素晴らしい計画をして頂き、有難く本当に喜んでおります。

旧制看護学校12回生

大 植 千代子

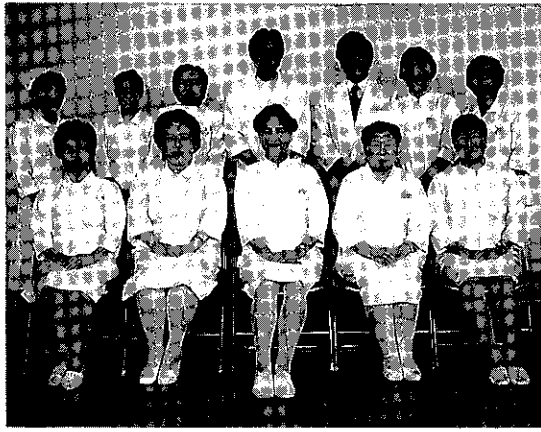
私等のために白友会発足して頂き、大変なご苦労だったことを厚くお礼申し上げます。

遠い遠い時代のお話に花を咲かせ楽しい一時を過ごさせて頂きました。皆、オバアチャンになつて顔を拝見しても戸惑いましたが、遠いお姿を思い出しました。

ご自愛の程をお祈り致しながら母校の発展を願っております。

同窓会役員紹介

平成八年十一月年度



常任幹事

坪内 操

常任幹事

森山 幸子

常任幹事

藤川 千洋

常任幹事

辻尾 敦宏

書記

中山サツキ

書記

城戸 滝枝

副会長

橋本 豊子

常任幹事

井原美保子

会計監査

宮武 明

常任幹事

山本 利枝

四年間、同窓会役員を務めさせていただきます。会員の皆様に親しまれる同窓会づくりを目指して頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

母校の近況報告

白友会常任幹事

井原 美保子

平成八年六月一日、大阪医科大学創立記念のよき日に、私ども同窓生が待ち望んだ同窓会「白友会」が設立され、はや、一年を迎えようとしています。その節は多くの方々に参集して頂き、お互いに懐かしさやうれしさで、そのひととかが一瞬のように思われました。これも偏に同窓生の皆様が、母校を心の故郷として大切に思われる絆の強さからだだと痛感いたしました。

学校では平成九年度の入学試験も無事終了し、一足早い卒業式となりました。平成八年度は、第一看護学科十二回生が五十五名、第二看護学科二十八回生三十六名が社会に巣立って参ります。今年から国家試験は、二月実施となり、結果発表も三月三十一日に行われます。また、例年の如く、卒業後養護教諭、保健婦、助産婦学校等に進学する学生も決まり、先輩のあとを追って夫々の分野で活躍してくれるものと期待しています。皆様周知の通り平成九年度より、社会の諸状況の変化に即応して看護学校のカリキュラムが改正され

ます。これまでと大きく変わる点は、専門分野の柱立てが基礎看護学・在宅看護論・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学の七つとなりました。また、基礎分野・専門基礎分野については従来と変わって指定規則が教科目ではなく教育内容として提示されました。したがって、教科目の設定は、指定された内容を満たす科目を各学校の裁量に任されることとなりました。本校でもコンピューターを導入した情報科学や人間関係論、論理的思考等を設定しました。教員一同討議を重ね、臨床の講師の方々の協力を得ながら四月実施に漕ぎ着けた次第です。

カリキュラムは昭和四十三年、平成二年そして今回と変わってきていますが、母校の伝統や信条とする理念・「生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を培う」
「向上心をもち主体的・自主的に行動する」
「よき社会人として広く社会に貢献できる」は、今も変わる事なく脈々と受け継がれ、活き続けています。これら、本校が医科大学という背景から講師の先生方や臨床実習施設、指導者等、教育環境が整っており、特に看護を学ぶ上で重要な実習では、人と人の繋がりを大切に、教員と臨



床指導者間の連携を密にした関わりが成果を修めていると自負しております。

また、平成六年より専任教員を中心とした研究誌大阪医科大学附属看護専門学校「紀要」を発刊し始め、今年で第三号の発刊に至りました。年々、臨床や非常勤講師の先生方の投稿も増加し、内容の充実を図りつつあります。

今、保健医療を巡る環境の変化に伴い、看護職に対する期待はますます大きくなってきています。基礎教育の現場にいる者として、今後さらに「グローバルな視野で物事が捉えられ、人間性豊かに、しかも実践的看護能力を身に付け、多様化した社会のニーズに応えられる人材」の育成に力を注いで参りたいと思います。

実習病院から

白友会会計監査

小林 千恵子

白友会の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。今年は大阪医科大学創立七十周年を迎えます。この記念すべき年に、白友会の会報が発刊されますことを大変嬉しく思っております。

本院は、大阪医科大学附属看護学校の開設以来、看護学生の実習の場として、六十七年に及ぶ歴史を有しています。それぞれの時代の中で、多くの関係者の皆様や諸先輩の御尽力により看護の質の向上がはかられ、実習病院としての環境も整えられて今日に至っていると歴史を振り返り感じています。

現在、本院は特定機能病院として厚生省の認可を受けており、人々に高度医療を実施する病院としての役割を担っています。外来診療科は二十科、病棟数二十二病棟、中央手術室、集中治療室、人工透析センター、リハビリテーションセンター等多くの外来診療科や病棟等で看護職は医療を受ける患者さんのニーズに対応すべく、医療チームの一員として働いています。病棟における看護方式は、チームナーシングの中に受持制を組み入

れ、一貫した看護が提供できるように努力しているところです。又退院後も適切な継続看護が受けられるように、外来や地域への退院サマリー等で看護の情報を報告し、活用されています。

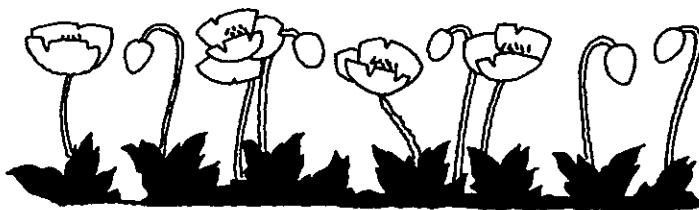
勢川看護部長の指導のもとに「患者さんの個別性を尊重し、その人にとって最大級の健康状態を保持できるように」を看護の目標にして日々の実践を大切にしています。また、「一人ひとりの看護職が、主体性をもって、患者中心の看護を実践する」この様な取り組みの中で、看護学生は学内で学んだ理論的、科学的根拠に基づいた看護の実習をすすめています。

看護管理上の諸問題は婦長会等で検討、各委員会活動等で役割を分担し、業務の改善、看護の質の向上、人材の育成に努めています。卒業教育は看護部教育委員会が中心になって実施、実習指導は各病棟、外来の臨床指導者が担当し、臨床の多くの看護職の協力も得て指導の充実を目指しています。

少子高齢社会の中で人々の看護へのニーズは一層多様化し複雑化すると考えられます。看護教育のカリキュラムも見直しが行われ、本年四月より新カリキュラムが適用されます。院内では、新しくコンピュータによるオーダーリング

システムが導入され始動しています。私達も一層の研究を積み、より効果的に看護の役割を果していかなければならないと考えております。

最後に看護学生が生き生きと実習でき、豊かな学びができることを願いつつ、実習病院からの報告とさせていただきます。



大阪医科大学

恩師からの

メッセージ

「雑感」

大阪医科大学名誉教授

大阪医科大学附属看護専門学校

非常勤講師

浜本 祐二

大阪医科大学看護専門学校も職員並びに多数の先輩の御努力により著しい進歩発展をとげ、平成八年六月に同窓会白友会の発足と本年は同窓会「会報」が発行される運びとなり、誠に慶賀に堪えません。これにより今後同窓生相互及び先輩との公私にわたる交流が深まるものと期待致しております。長年勤務させて頂いて感じますことは看護学の著しい進歩と共に看護学と医学との分担が判然としてきた事でありませす。医療器具・医療の進歩とは別に患者への精神的サポート及び自立への援助という重大な役割は専ら看護婦(士)に委ねられてきました。これは素晴らしいことですが、これには看護と医療が互いの信頼と相互理解が必要であると考えます。

報道によれば最近看護学生で女

性のボブスレー競技に活躍し、且つ看護と両立させる自信を述べておられました。誠に好ましく、この様な若い活力が立派に芽生えることを祈りたく思います。と同時に自由な活躍には責任も伴うことが大切です。管理が厳しい時代では先輩達が事故や挫折の予防に気配りをされていましたが、自由な今日では誘惑に対処することも自己の責任であらうと思えます。

また、国際交流が盛んになると看護業務も近い将来国際レベルを要求される時代がくると考えられます。看護の面でも外国文化を取り入れ、これを消化して役立てる必要も生じると思えます。しかし、外国の看護レベルを模倣することに終始することが必ずしも看護学の進歩ではないと思えます。何故ならば現在の日本では患者が臨終の前に僧侶の説教を聞いて「安心立命」を得る例は少ないのではな

いかと考えます。色々と老人の説教めいたことを述べましたが、先日ある看護学生が戴帽式に際し、「将来如何なる苦勞があつても決して後悔はしない」と述べておられました。感謝の念をもってこの「会報」により人間的なふれ合を深めて頂きたいと考えます。

図書館紹介

現在の図書館棟は、大阪医科大学創立六十周年記念事業の一環として、平成六年九月五日オープンしました。本部・図書館棟は、教育・研究・医療を結ぶ接点に位置し、図書館はその2・3階と地下の一部を占めます。建築上特に留意したのは次の点です。

- 一、「利用しやすく、かつ寛いだ思索の場」を利用者に提供するため、館内の設備について木製品を配置しました。
- 二、「総合医療のための図書館」を目指しました。情報の一元化のために本館と看護専門学校図書館を併設し、図書館機能の強化・高度化のために図書館業務全般の電算化を行いました。
- 三、「学習・研究図書館の近代化・多様化」に対応するために、館内にニュー・メディア情報室・AV室、グループ学習室・研究個室等を設けました。
- 四、「情報の着信基地」を目指して、通信網を整備して、学外の学術情報センター等と本館を接続し、

学内の諸施設、特に医学情報処理センターや研究室とをLANで結び、MEDLINE等のデータベースの利用によって研究・教育・医療に役立てようとしています。

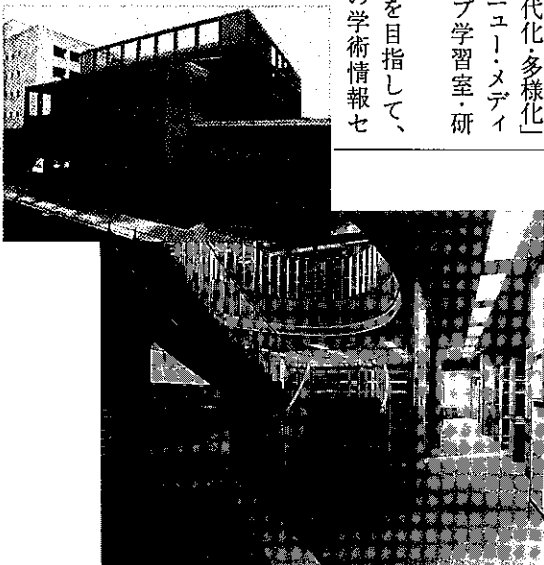
五、「開かれた図書館」とするために、学内関係者

のみでなく、卒業生にも門戸を開放しています。

新図書館の建設に伴って、看護専門学校図書室が同じ建物の中に併設されることになり、三階に看護図書コーナーが設置されました。開館時間の延長に伴い、実習を終えた学生はもちろんのこと、勤務を終えた看護スタッフの方々も、余裕をもって利用できるようになりました。

恵まれた教育環境が看護学生や教員の学習・研究を促進させ、ひいては看護専門学校の発展にも繋がるものと確信しています。

OMNIBUS大阪医科大学図書館報
一九九四年創刊号より



思い出の窓

「母校の思い出」

第一看護学科一回生

川西 いづみ

今、卒業記念写真を見ながらこれを書いていきます。みんな：若いノ私達一回生はもちろんのこと、先生方（今は婦長をされている）も、チョット今とは違う。だって、もう十年以上も前のことなんですよのね。

学校や臨床実習では、けっこう「しんどい」思い出が多いのです。「一回生四十一名、何が何でも全員国家試験合格」。これが入学当時のからのスローガンになっていて、はみ出た行動は許されないといい雰囲気でした。それに、実習では、よく、「レギュラーの人ってどうやって教えたらいいのかわからないから……」なんて面と向かって言われたこともあったりして……。まじめな（？）私は、この一回生プレッシャーに見事にハマっていた一人でした。（今から思うと要領が悪かっただけなんですけれど。）でも今では、同級生と話す機会が

あると、「あのときは凄かったよねー」なんて笑い話になっていきます。

初めてだった寮生活。みんなと夜遅くまでお菓子を食べながら喋って、一緒に勉強もして、励まし合いながら暮らすのも悪くなかったなあ。（冬に部屋の中でも吐く息が白かったときはこの時代にどうして……と悲しかったけれど。）

大切な思い出がひとつあります。私達一回生には、同じ課程の先輩がいません。国試の前日もみんな緊張していました。そんな中、二看二部の最後の卒業生であった先輩方が、差し入れをして下さいました。ゆで卵の殻には、励ましのメッセージが書かれてありました。嬉しくて、お守りのように握り締めていますと、勇気が湧いてくるようでした。国試の時期になって一年目のスタッフが「明日差し入れにいくんです。」と言っているのを聞くと、今でもあのときのことを思い出して、感謝の気持ちで一杯になります。本当にありがとうございます。ございました。

取り留めのない内容になりましたが、書いているうちにみんなに会いたくなりました。

同窓会からの

お知らせ

勢川会長、

厚生大臣表彰授与

日本看護協会創立五十周年記念式が、昨年十一月十六日、皇后陛下ご臨席のもと東京プリンスホテルで盛大に行われました。その席で勢川会長が、長年にわたる看護の功績を認められ、厚生大臣表彰を授与されました。

白友会からのお祝として、記念祝賀会の席で花束を贈呈いたしました。



お願

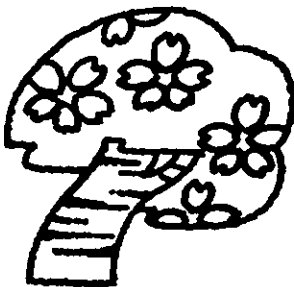
会報名募集

今回の会報名は「白友会会報」としましたが、白友会にふさわしい会報名を募集致します。同窓会事務局までおハガキでご応募下さい。

新規会員募集

この白友会は、皆様のご協力により現在一四五名にもおよぶ会員の方々のご参加を得ております。しかしながら、未だ同窓会設立をご存知ない同窓生の方々が多くおられることと思えます。

もし、そのような同窓生をご存知の方がいらっしやいましたら、是非お知らせいただきまますようお願い致します。



新入会員紹介

(平成8年度卒業生)

第一看護学科12回生55名

足生石和和乾今大大奥尾片金鎌河小小小坂坂佐々繁下杉田高高高

立嶋中泉泉井島西田崎木子野野中村山井本木渡田光本岡野橋橋

友綾淑伊佐直裕恭久真奈優菜麻純浩恵理綾由里有一美亜美香佳真典る

紀子子子子子美代恵美央子摘美子子理恵子恵加美紀紀輪織理子子み

裕美あ光昌伸か夏寿美純雅恵百良協美千ま和弥美祐知

尾島村村田鉾崎行野瀬本見川田村本村内島口下田根岩原

柄中西西新幡花濱林東広藤細堀前松松三宮八山山山山横分

子ね代美世子子紀子子睦以子子子恵み子生穂子薫子

第二看護学科29回生36名

川井寺下石保野峰田川野原田本宮田林崎

美志陽安勝英貴裕由知真宏敦由真正かほり

子穂子加子美子恵加恵美弓美子紀理子

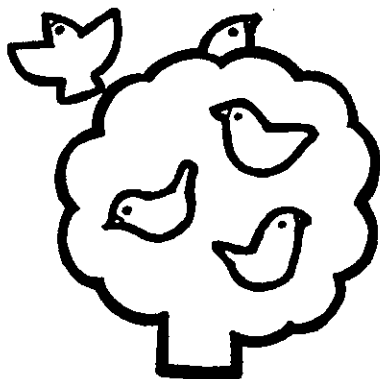
石坂井岩大大久大大岡小小小鎌木釘久小柴

崎石口田中田本高澤石井浦田下田中

め夏弘裕美峰裕純尚純亜さ奈結礼みゆ真

ぐ美美穂子美香子子紀愛こ央理子き紀

下白田竹田谷辻日平廣藤松松湊山山山渡



編集後記

この度、私達の同窓会は、平成8年6月の発足を契機に平成9年4月より年一回の「白友会会報」を発行することになりました。

第一号は、会長挨拶・同窓会設立総会報告・母校、病院の近況報告・同窓会からのお知らせ、お願いを中心とした内容としました。

「総会を終えて」「恩師からのメッセージ」「母校の思い出」等の原稿依頼ではお忙しい中、快くお引受けいただきました皆様に感謝の気持ちで一杯です。

会報が同窓会会員の語らいの場となればと考えております。

今回、第一号の会報担当となりましたが、無事編集を終え一息ついていきます。

今後、会報が続けて発行できますように役員一同努力を重ねてまいります。ですので、皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

会報担当

辻尾 敦宏
城戸 滝枝
中山サツキ

